

令和 2 年 9 月 6 日現在

機関番号：34525

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04792

研究課題名(和文) 保育者養成における専門性としての共感性を育む授業の開発的研究

研究課題名(英文) Study of developing it of the class to bring up cosensitivity as the specialty in the childminder training

研究代表者

三木 澄代(miki, sumiyo)

関西福祉大学・教育学部・教授

研究者番号：30633705

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：多次元共感性尺度による調査では、自己指向性において保育者と高等学校教員に有意差が見られた。自我同一性獲得を課題とする高校生には、対等な人格としての教師の自己指向性が求められるが、保育者への依存が強く自我が未熟な幼児には保育者の自己指向性抑制が求められるものと考えられた。絵本の登場人物への共感を身体感覚の概念化(彩色 オノマトペ 言語)ワーク実施の自己指向性への影響の効果については現在検討中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

所属機関異動による研究環境(教育課程・担当授業科目)の変化、新型コロナウイルス感染拡大に伴う研究諸活動(質問紙調査・授業・データ集計等)の実施遅延により、保育者の専門性としての共感性の育成に向けた授業(絵本を活用した身体感覚の概念化ワーク)の効果は現在検討中である。今後継続して多次元共感性の各側面への授業効果を検討・考察し、保育者養成課程の授業において保育者として求められる共感性の育成の一助とする。

研究成果の概要(英文)：In the investigation by the multidimensional consensual standard, significant difference was seen in a childminder and a high school teacher in the self-directivity. The self-directivity of the teacher as the equal personality was demanded from the high school student who assumed self identity acquisition a problem, but it was thought that the self directivity restraint of the childminder was demanded from the infant that the dependence on childminder was strong, and self was unripe. I am examining influence on self-directivity by the conceptualization work (coloring onomatopoeia language) of the physical sense for the sympathy to the character of the picture book now.

研究分野：学校臨床心理学

キーワード：保育者 専門性 共感性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

共感性は、社会的行動の背景として重要な概念であり、保育・教育職・看護・福祉職等対人援助職を中心とした職業において必要な資質と捉えられている(西村ら, 2015; 三木, 2015)。就学前の保育・教育についてみると、保育士については、保育所保育指針(厚生労働省, 2018)の第1章総則に、「2 養護に関する基本的事項」として「一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。」とあり、保育士には、他者に共感する能力が求められることが理解される。また、就学前保育・教育を規定する同指針・幼稚園教育要領(文部科学省, 2018) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2018, 内閣府・文部科学省・厚生労働省, 2018)に共通する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として“他者へ共感できるようになること”があげられ、保育の内容にも“子どもが共感できることやそのような体験により他者とのかかわりを楽しめるようにすること”が求められている。子どものこのような反応を導くためには、保育者自身の共感性が求められることは自明のことであり、保育者養成課程の授業において専門性としての共感性を育むことを重要課題であると捉えられる。

2. 研究の目的

上述により本研究では保育者ならびに教育・保育学生の共感性の態様について実態を把握するとともに、専門性として求められる共感性の育成に向けた授業実践方法の開発に取り組むことを目的とした。

3. 研究の方法

【研究1】現職教育・保育者の共感性の実態と特徴に関する研究

(方法) 質問紙調査(全75項目)ー内容は下記のとおりー

- ・多次元共感性尺度(木野・鈴木, 2008)24項目
- ・情動的共感性尺度(加藤・高木, 1980)25項目
- ・日本語版ソーシャルサポート尺度(岩佐, 2007)12項目
- ・被受容感・被拒絶観尺度(杉山・坂本, 2006より被受容感を問う質問)8項目
- ・その他(身体感覚に関する質問)6項目

(実施期間) 2018年11月～2019年3月

(対象) A県B地区の現職保育士・教員(幼小中高)749名

【研究2】保育学生の共感性の実態と特徴に関する研究

(方法) 質問紙調査(全75項目(上記【研究1】に同じ)): 無記名

(実施期間) 2021年4月ー予定ー研究期間中2度にわたる所属機関の異動に伴い当初計画に大幅な変更が生じたこと、現所属機関における研究実施が倫理審査に要する期間を要したことから、全学年対象の一斉調査(研究1と同内容の質問紙調査)実施の時期が2020年3月末(次年度オリエンテーション時)に予定変更となった。更に、その時期が新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休業期間と重なり現在までオンライン授業が継続していることから一斉調査が未実施である。このため、大学生の共感性の実態・特徴についての把握は今後の課題としてできるだけ早期実施に努める。

(対象) 教員養成課程・保育士養成課程の大学生(1～4次生: 各200名程度)ー予定ー

【研究3】身体感覚の概念化が保育学生の共感性に及ぼす影響に関する研究ー絵本を活用してー

(1) (方法) 質問紙調査(全75項目)(上記【研究1】【研究2】に同じ): 記名(パスワード記入)

(実施時期) 2019年度: ワーク(5回) 実施前の調査: 2019年12月

実施後の調査: 2020年1月ー2月中旬回収ー

2021～2022年度 事前調査: 各年度10月 事後調査: 各年度12月ー予定

備考: 研究期間中2度にわたる所属機関の移動に伴う授業科目・実施時期・授業計画の変更により、実践研究の実施開始が2年遅れとなり2019年度後期後半に遅延した(以下(2)も同様)。

(対象) 教員(小・幼)養成課程・保育士養成課程の大学生 2年次生(筆者担当科目履修者) 200名ー予定ーうち2019年度実施対象者: 65名

(2) (方法) 実践研究 絵本(下記5冊)の読み聞かせの視聴を通した「身体感覚の概念化に関する実習」(松本, 2013)のワーク体験及び振り返り 計5回

- ・第1回: ピータ・レイナルズ 著なかがわちひろ訳 2009 『つばい』主婦の友社
- ・第2回: 柴田愛子 2019/2001 『けんかのきもち』ポプラ社
- ・第3回: 筒井頼子 1982 『あさえとちいさいいもうと』福音館書店
- ・第4回: ルース・エイズワース著石井桃子訳 1977/1978 『こすずめのぼうけん』福音館書店
- ・第5回: 谷川俊太郎 1978/2008 『きもち』福音館書店

(実施期間) 2019年度: 2019年12月～2020年1月末

(対象) 教員(小・幼)養成課程・保育士養成課程の大学生 2年次生(筆者担当科目履修者) 200名ー予定ー2019年度実施対象者: 65名

2021～2022年度: 各70名ー予定ー

4. 研究成果

【研究Ⅰ】

- ・調査対象：兵庫県下公私立保育・教育機関教員・保育士計 749 名
- ・調査時期：2016 年 11 月～2017 年 3 月
- ・結果(一部)：多次元共感性(被影響性・他者志向的反応・想像性・視点取得・自己志向的反応)と情動的共感性・被受容感との関連、情動的、情動的共感性と被受容感・身体感覚の関連

	Ⅱ 感情的温かさ	Ⅱ 感情的冷淡さ	Ⅱ 感情的被影響性	Ⅱ 情動的共感性合計	Ⅲ 被受容感	V 身体感覚
I 被影響性	Pearson の有意確率 (両側) .322	.034	.593	.448	-.039	.259
	.000	.357	.000	.000	.285	.000
	756	756	756	756	756	756
I 他者志向的反應	Pearson の有意確率 (両側) .595	-.362	.160	.264	.299	.248
	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	756	756	756	756	756	756
I 想像性	Pearson の有意確率 (両側) .461	-.041	.328	.414	.114	.261
	.000	.263	.000	.000	.002	.000
	756	756	756	756	756	756
I 視点取得	Pearson の有意確率 (両側) .488	-.084	.010	.301	.337	.233
	.000	.021	.787	.000	.000	.000
	756	756	756	756	756	756
I 自己志向的反應	Pearson の有意確率 (両側) .262	.352	.291	.490	.052	.182
	.000	.000	.000	.000	.153	.000
	756	756	756	756	756	756
I 多次元共感性合計	Pearson の有意確率 (両側) .661	-.026	.431	.599	.233	.369
	.000	.475	.000	.000	.000	.000
	756	756	756	756	756	756

	Ⅱ 被受容感	V 身体感覚
Ⅱ 感情的温かさ	Pearson の有意確率 (両側) .418	.369
	.000	.000
	756	756
Ⅱ 感情的冷淡さ	Pearson の有意確率 (両側) .002	-.045
	.966	.219
	756	756
Ⅱ 感情的被影響性	Pearson の有意確率 (両側) -.051	.273
	.163	.000
	756	756
Ⅱ 情動的共感性合計	Pearson の有意確率 (両側) .281	.328
	.000	.000
	756	756

【研究Ⅱ】 保育学生の共感性の実態と特徴に関する研究
調査未実施 (実施時期：2021 年 4 月以降)

【研究Ⅲ】 身体感覚の概念化が保育学生の共感性に及ぼす影響に関する研究—絵本を活用して—

- ・実施対象：保育内容Ⅲ (人間関係) 受講者 65 名
- ・実施期間：2019 年 12 月～2020 年 1 月
- 結果(例) 全 5 回/人—

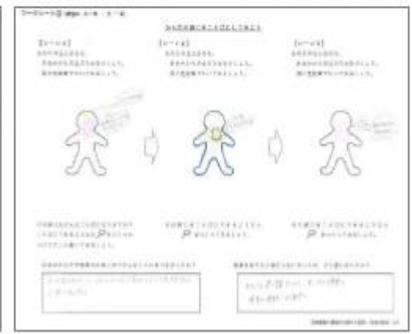
第 1 回：使用した絵本『っばい』



第 2 回：使用した絵本『けんかのきもち』



第 3 回：使用した絵本『あさえとちいさいいもうと』



第 4 回：使用した絵本『こすずめのぼうけん』



第 5 回：使用した絵本『きもち』



上述のとおり、現在【研究 2】について調査が未実施 (実施時期未定) であり【研究 3】については結果のまとめ・考察を継続中である。今後、すみやかに未実施の調査を実施し結果集計ならびに考察を進めるとともに、【研究 1】【研究 2】【研究 3】各結果をふまえて総合考察をまとめる。また、【研究 3】については、統制群を設けて今年度以降も継続してサンプル数を増やし、ワーク実施による共感性への影響について検討を重ねていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究期間に所属機関を2度異動し、研究計画の再検討・倫理審査等の通過に時間を要した。また、現所属機関での担当授業のうち実践研究が可能な科目の選定が遅延し実践研究が2020年度後期後半となったこと、新型コロナウイルス感染症拡大下の緊急事態宣言・休業等の諸条件が重なり予定の調査が未実施となっていることから、結果のまとめ考察が未完了の状態にある。今後、研究を継続し当初計画をすみやかに遂行し今年度内の完了を目指す。また、研究3（ワーク実践）については、今年度以降（対面授業での演習が可能になり次第再開）も統制群を設けた実践を重ねてサンプル数を増やしてワーク実践の授業効果を検証したい。

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----